

東北労災病院診療科案内

(2024 年 9 月現在)

消化器内科

部長 小林 智夫

部長・消化器内視鏡センター長 大矢内 幹／部長 山川 暢、小島 康弘、白木 学、近藤 穰

副部長 齋藤 晃弘、半田 朋子、枡 悠太郎

医師 今成 賢士郎、佐藤 拓、伊藤 圭祐、渡部 康也

【特色】

平素より地域医療連携登録医の先生方、施設の皆様には当科に患者さんをご紹介いただきましてありがとうございます。消化器内科にご紹介いただきました患者さんは、診断後に各専門担当医が診療を担当致します。当科の各専門領域をご紹介します。

上部消化管領域では内視鏡検査による疾患の診断を通じて、上部消化管の良性・悪性疾患や他疾患の合併症の治療を多数施行しております。**内視鏡による悪性腫瘍治療**は、練度の高い専門医が安全性に留意しながら施行しています。**手術適応の場合には消化器外科と密に連携して治療を進めています。**

下部消化管領域でも同様に内視鏡検査を通じて良性・悪性疾患の別なく診断・治療を行っております。**炎症性腸疾患(IBD)センター**では内科と外科が連携して診療しています。**炎症性腸疾患の拠点病院であり、当科の炎症性腸疾患に対する生物学的製剤治療導入数は宮城県内でも有数です。**感染症などの副作用管理が必要な高度の専門性を要する治療を経験豊富な専門医が行っています。

肝臓領域では、抗ウイルス薬の進歩でB型・C型肝炎患者さんの病状進行抑制・治癒が確立しました。飲酒・肥満等による代謝性肝疾患が増加しており、**肝生検**で診断して治療を行っています。各肝疾患を背景とした肝硬変では現在でも肝癌発症の危険性が高く、**ラジオ波焼灼術・肝動脈塞栓術・分子標的薬・免疫チェックポイント阻害薬**で治療しています。

胆膵領域では、**胆嚢・総胆管結石に対する内視鏡治療、胆膵系悪性腫瘍に伴う閉塞性黄疸に対する減黄処置、膵臓疾患の超音波内視鏡下穿刺吸引法(EUS-FNA)**による診断も行っています。専門の担当医が、急性期治療を行っています。

登録医の先生方・登録施設の皆様からご紹介いただきました患者さんには、上記のような専門性をもって診療に努めますので、今後とも当科へのご支援をよろしくお願いいたします。

【主な疾患】

- 上部消化管：食道炎、食道癌、消化性潰瘍、胃癌、胃炎 等
- 下部消化管：クローン病、潰瘍性大腸炎、虚血性腸炎、大腸癌 等
- 肝胆膵疾患：肝炎（急性、慢性）、肝癌、胆石症、胆のう炎、胆道癌、膵炎、膵癌 等

【診療実績】

	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
内視鏡的止血術（上部）	71	85	96	84	90
内視鏡的止血術（下部）	40	34	46	70	38
内視鏡的粘膜切除術（上部）	7	5	8	12	15
上部ESD	108	128	126	113	119
下部ESD	16	30	28	41	33
内視鏡的静脈瘤硬化療法・結紮術	20	23	21	13	24
内視鏡的胃瘻造設術	38	28	31	34	31
内視鏡的大腸ポリープ切除術	459	381	381	344	406
計	759	714	737	711	756

	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
上部消化管内視鏡	6,925	6,965	6,917	6,424	6,277
下部消化管内視鏡	3,302	3,073	3,074	2,956	2,943
膵胆道系内視鏡	125	117	103	102	160
計	10,352	10,155	10,094	9,482	9,380

	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
肝動脈塞栓術	15	15	21	16	12
経皮的肝癌治療	12	15	15	20	3
経皮的肝生検	67	93	90	73	86
計	94	123	126	109	101

【特殊治療】

内視鏡止血、内視鏡的異物除去（魚骨、義歯、PTP など）、食道静脈瘤硬化療法/結紮術、内視鏡的食道胃粘膜切除術（EMR）、内視鏡的胃粘膜下層剥離術（ESD）、内視鏡的大腸ポリープ切除術、内視鏡的胃瘻造設術などエタノール局注療法、経皮的ラジオ波熱凝固療法、肝動脈塞栓術、肝生検、経皮的胆道ドレーン、内視鏡的総胆管結石除去術等

【ご紹介いただく際の留意事項】

緊急性の高い患者さんの場合は、**消化器内科外来（022-275-1111（代）から消化器内科外来へ）**あるいは**当科医師に直接ご連絡**ください。新患の場合、予約も承っております。予約希望の際は当院地域医療連携センターを通して予約をお願いいたします。予約の際は、**診療情報提供書の他検査結果等**もご添付いただきたく存じます。

呼吸器内科

院長代行・アスベスト疾患ブロックセンター長 三浦 元彦

部長 榊原 智博

副部長 田代 祐介、中村 優、大塚 竜也

医師 谷津 年保、阿部 武士、小笠原 嵩天

【特色】

現在呼吸器内科にはスタッフ7名が在籍しており、日々の診療にあたっています。平日夜間、休日対応に関

してもスタッフによる当番制としており、当直医と協力して可能な限り診察を行っています。

呼吸器内科として対応可能な疾患は肺炎や気管支喘息、COPD など患者数が多い一般的な疾患から、肺癌、間質性肺炎、気胸など専門的な検査、治療を要する疾患、また労災病院として塵肺やアスベスト関連疾患など職業に関連した疾患まで、呼吸器疾患のほぼ全てに対応して診療しています。またここ3年間は新型コロナウイルス感染患者の入院診療にもあたっております。

外来を受診する患者さんの主訴として多いのは、長く続く咳嗽、喀痰の他、呼吸困難などです。また症状がなく検診などで胸部異常陰影、胸水などを指摘され紹介される患者さんも数多くいます。それらの患者さんを診断するための検査として特に重要なのは画像検査(胸部単純写真、胸部 CT)、呼吸機能検査、気管支鏡検査です。外来では画像検査、呼吸機能検査を主に行っており、特に呼吸機能検査は気管支喘息やCOPD の診断に欠かせません。通常の呼吸機能検査に加えて気道可逆性試験、呼気 NO 検査、気道過敏性試験も行っており気管支喘息、COPD 確定診断のための一助となっています。気管支鏡検査は主に肺癌診断のために入院で行っていますが、EBUS-GS、EBUS-TBNA、バーチャル気管支鏡など肺癌診断率向上のために新しい技術を導入し、さらに実際の検査時には鎮静剤をルーティンで使用して、患者さんの苦痛軽減にも努めています。また原因不明の胸水精査のための胸腔鏡検査による胸膜生検も行っています。

現在の呼吸器疾患の診療においては、他科との連携が非常に重要となっています。特に肺癌の治療に関しては呼吸器内科だけでは適切な医療は提供できず、呼吸器外科、放射線治療科、緩和ケア内科、病理診断科などの各科と協力して診療を行っています。各科との協力により肺癌の診断から手術、放射線治療、化学療法、緩和医療(疼痛コントロールなど)まで当院で適切な肺癌治療が一貫して行えるようになっていきます。

このように多種多様な呼吸器疾患に対応していますが、呼吸器疾患は急を要する場合があります。急を要する紹介の際には、電話などでご一報いただければ、できる限り当日対応しています。余裕がある場合は紹介状をご用意いただき、平日午前中の外来に紹介いただければと存じます。呼吸器疾患が疑われる場合には是非呼吸器内科にご紹介ください。

【主な疾患】

肺炎、気管支喘息、COPD、肺癌、間質性肺炎、気胸、塵肺、アスベスト関連疾患

【診療実績】

	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
気管支鏡検査件数	141	146	133	120	111
局所麻酔下胸腔鏡検査数	10	10	4	1	3
新規肺癌診断数	82	87	88	81	65
計	233	243	225	202	179

【ご紹介いただく際の留意事項】

緊急性の高い患者さんの場合は、呼吸器内科外来(022-275-1111(代)から呼吸器内科外来へ)あるいは当科医師に直接ご連絡ください。緊急性のない新患の場合は、予約も承っております。予約希望の際は当院地域医療連携センターを通して予約をお願いいたします。

循環器内科

部長 田中 光昭

副部長 高橋 貴久代、宇塚 裕紀

医師 天水 宏和、藤橋 敬英

【特色】

いつも循環器内科に患者さんを紹介して頂きありがとうございます。2024年3月まで、3人体制で診療を行っていましたが、4月より天水先生・藤橋先生の2名が加わり、5人体制になりました。今年度は、急患対応を今まで以上に積極的に行う方針です。

今年度も当科では、循環器疾患全般(急性心筋梗塞や狭心症などの虚血性心疾患、心不全、心房細動や完全房室ブロックなどの不整脈)に対応しています。

近年、高齢化社会とともに心不全患者が増加しています。この増加は仙台医療圏でも認められ、心不全入院患者の高齢化が著しいです。当科の入院患者の半数近くが90歳以上のこともあります。最近は新たな心不全薬として、サクビトリルバルサルタン・SGLT2阻害薬・ベルイシグアト・イバブラジンが登場し、ガイドラインも大きく書き換えられています。また、大動脈弁狭窄症に対する経カテーテル的大動脈弁留置術(TAVI)や僧帽弁逆流に対する経皮的僧帽弁接合不全修復術(MitraClip)が登場し、弁膜症に対する治療の適応が拡大しています。

このように近年の心不全治療の進歩は目覚ましく、「予後の改善」や「症状の緩和」を治療目標に、患者ひとりひとりの病態にあった適切な治療法の選択が必要です。当科では、増悪している心不全患者の急性期入院治療とともに、高度医療が必要な方の選別や外来での薬物調整など、幅広く対応させていただきます。特に、診療体制が充実した今年度は、急患対応に力をいれていきます。呼吸苦やむくみなどの心不全疑い患者や、胸痛を訴える急性心筋梗塞疑い患者など、診断や治療に困った方がおりましたら、ぜひお声がけください。

胸部症状を訴えるなど緊急性の高い患者さん(急性心筋梗塞・急性心不全・頻脈/徐脈などの不整脈)は、**☎090-6810-5313** にご連絡ください。当科医師が直接対応させていただきます。緊急性のない方は、地域医療連携センターを介して予約をして頂けるとスムーズです。お待たせしないように最大限努めますので、ご紹介のほどよろしくお願い申し上げます。

【主な疾患】

循環器疾患全般(急性心筋梗塞や狭心症などの虚血性心疾患、心不全、心房細動や完全房室ブロックなどの不整脈)

【診療実績】

	2021年	2022年	2023年
心カテ総数	167	109	114
PCI症例数	45	31	40
緊急冠動脈造影検査	18	17	27
緊急PCI例	15	14	20
ペースメーカー植え込み	23	35	25
下大静脈フィルター	3	3	1
心エコー	3,242	3,217	3,372
運動負荷試験（CPX含む）	583	503	479
心臓核医学検査	42	36	31
心臓・冠動脈CT	48	40	33
計	4,186	4,005	4,142

PCI:経皮的冠動脈インターベンション

【ご紹介いただく際の留意事項】

緊急性の高い患者さんの場合は、循環器内科医師直通ホットライン(090-6810-5313)あるいは循環器内科外来(022-275-1111(代)から循環器内科外来へ)にご連絡ください。緊急性のない新患の場合は、予約も承っております。予約希望の際は当院地域医療連携センターを通して予約をお願いいたします。

糖尿病・代謝内科

部長・糖尿病・内分泌・高血圧センター長 鵜田 藍

部長 金野 敏

医師 宗像 正徳、中村 麻里、金子 礼、久保 朋子、熊谷 絵里、鈴木 令子

【特色】

糖尿病、高血圧、内分泌疾患については従来「糖尿病代謝内科」「高血圧内科」として独立、別の診療科で担当を行ってまいりました。

2024 年度より診療科を統合し、これまで以上に高血圧と糖尿病を合併する患者さんに対して包括的な医療を提供できるよう体制を整えました。

また、糖尿病や高血圧といった一般的な疾患として治療されている患者さんのなかに内分泌疾患が原因となっているケースがあります。これら内分泌疾患の検査から診断、治療に至るまで対応いたします。

なお、当院での検査や治療が困難な場合は適切に高次医療機関への紹介を行っております。

スタッフは今年度 2 名増え、糖尿病、高血圧、内分泌疾患の垣根をこえて随時カンファランスを行いながら診療にあたります。糖尿病専門医 5 名、内分泌代謝専門医 2 名が在籍しております。

従来通り予定入院、緊急入院、レスパイト入院に対応いたします。

また、高度肥満例など減量希望については外来もしくは入院の上対応いたします。

入院が難しい患者さんには外来にて精査や検査を行います。入院を迷っているまたは何らかの事情で入院できない患者さんにつきましてはまずご紹介ください。当方で患者さんご家族に対して説明を行った上で、治療方針を決めさせていただきます。

大半の糖尿病、高血圧症の患者さんは慢性の経過をたどります。過去のデータや治療経過は今後の方針の決定において非常に重要です。そのため当科への紹介に際しましては医療機関や検診センターからの紹介状をご持参いただくか事前に地域医療連携センター宛に FAX か郵送をお願いしておりました。ご紹介いただく先生方には大変なお手間をおかけしますがご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。

【主な疾患】

糖代謝一般（低血糖含む）、シックデイおよび急性合併症（低血糖昏睡、糖尿病性ケトアシドーシス）、術前および術後血糖管理、外来インスリン導入、インスリンポンプ治療、非糖尿病を含む肥満症、高血圧症、内分泌疾患

【ご紹介いただく際の留意事項】

新患の場合、予約も承っております。なお、**内分泌分野は新患は完全予約制**です。予約希望の際は当院地域医療連携センターを通して予約をお願いいたします。予約の際は診療情報提供書および検査結果などの添付をお願いいたします。

腫瘍内科 完全予約制

部長 森川 直人

【特色】

当院腫瘍内科は、消化器がん、乳癌を中心に術後治療から進行・再発、終末期ケアまで幅広い診療を行っています。また悪性リンパ腫についても東北大学病院血液内科医師にご指導いただきながら化学療法を行っております。「**地域に根ざした General medical oncologist**」として、専門性をもちつつ幅広い腫瘍に対応できる診療科を目指しています。

院内では緩和ケア内科と連携して、早期からの緩和ケアを積極的に進めています。また、消化器外科、消化器内科、放射線治療科とも緊密に連携して、Conversion 手術や消化管/胆管ステント、緩和照射など、薬物療法に限定せず、患者さんにあった適切な治療選択をすすめています。

薬物療法は主に外来化学療法センターで行っております。他院にくらべて予約時間からの待ち時間が少なく、外部評価でも高く評価されています。**がん緩和ケア認定看護師**や**がん専門薬剤師**も常駐しており**多職種によるきめ細かいサポート**を行っています。

近年では東北大学病院と連携して、**がんゲノム医療**も積極的にすすめており、地域の患者さんの高度医療への入り口として年 10～20 件の検査と、その後の対応を行っています。

地域の先生方より骨転移やリンパ節転移で見つかった原発不明がんの患者さんをご紹介いただく機会が増え、診断から治療に至るまで一貫して取り組んでいます。また、総合病院の強みを生かして、**免疫チェックポイント阻害剤**など**施設要件のある薬剤の投与**についてもご紹介をいただいています。一方で、退院後の往診管理や、定位放射線治療、脳神経の合併症など当科からご紹介するケースも増えており、「双方向

性の地域連携」を目指して有機的な連携をすすめていく所存です。

他院からご紹介から受診まで平均 1 週間前後であり、迅速な対応を心がけております。引き続きご紹介のほど、よろしくお願いいたします。

【ご紹介いただく際の留意事項】

新患は完全予約制です。当院地域医療連携センターを通して予約をお願いいたします。予約の際は、診療情報提供書その他検査結果等もご添付いただきたく存じます。

腎臓内科 完全予約制

副部長 神田 学

【特色】

平素より大変お世話になっております。

腎臓内科では検尿異常や腎機能障害(急性/慢性)の精査・生活指導など幅広く腎疾患の診療を行っております。また、慢性腎臓病の診療においてはスムーズに各種腎代替療法を行えるよう、患者さんへの丁寧な説明を心がけております。

透析領域においては、外来透析の他、入院透析、自家静脈内シャント作製、腹膜透析外来を行っております。入院透析では透析新規導入、透析患者さんの合併症による入院の他、持続緩徐式血液濾過や血漿交換、吸着式血液浄化法など各種急性血液浄化療法も行っております。また、介護者の疲労や入院に伴うレスパイト入院も 2 週間単位で受けております。

様々な疾患・病態に対し、各診療科と連携し診療にあたっております。

ベッド数が少ないことと、勤務体系から土曜日の透析が難しく火木土の透析を通常は行っていないことから入院透析の人数は限られてしまいますが、可能な限り受け入れをしておりますのでいつでも御相談ください。

【主な疾患】

腎機能障害(急性/慢性)

【ご紹介いただく際の留意事項】

新患は完全予約制です。当院地域医療連携センターを通して予約をお願いいたします。予約の際は、診療情報提供書その他検査結果等もご添付いただきたく存じます。

リウマチ科 完全予約制

副院長・部長 畠山 明／部長 加藤 一郎

医師 成田 衛

【特色】

疾患の内訳は、半数強が関節リウマチで、残り半数弱がその他の膠原病・膠原病類縁疾患であり、全身性

エリテマトーデス、強皮症、シェーグレン症候群、混合性結合組織病、多発性筋炎/皮膚筋炎、脊椎関節炎、リウマチ性多発筋痛症、掌蹠膿疱症性骨関節症、血管炎症候群、成人スティル病、再発性多発軟骨炎などとなっています。

これまで当科では、リウマチ膠原病全般の診療に当たらせていただいておりますが、常勤医の高齢化や体調面の問題に加え後任不足、働き方改革の影響、膠原病診療に必要な専門診療科の不足(血液内科や神経内科など)に対し求められる医療の高度化など、諸般の事情で、2019 年 4 月から関節リウマチ以外の膠原病の診療を縮小しております。また逆紹介などもお願いして外来の負担軽減を試みてますが実際には実現できず待ち時間が長いなどの問題はまだ解決されておられません。2024 年は解消に向けて努めております。

関節リウマチに関しては、関節 MRI、関節エコーを用いて早期診断を心がけ、また、早期の臨床的、構造的寛解の達成を目標に、リスク評価を行った上で、生物学的製剤・JAK 阻害剤を積極的に導入しております。

また、当院の整形外科とも連携し、最先端の医療を提供できるよう努力して参りたいと思います。

【主な疾患】

関節リウマチ

【ご紹介いただく際の留意事項】

新患は完全予約制です。当院地域医療連携センターを通して予約をお願いいたします。予約の際は、診療情報提供書その他検査結果等もご添付いただきたく存じます。

緩和ケア内科

部長 小笠原 鉄郎
医師 珠蘭 其其格

【特色】

当院は県内で最も早く「緩和ケアの提供」を始めた病院です。

政府は第 4 期 がん対策推進基本計画(2023 年 3 月閣議決定)の全体目標を「誰一人取り残さないがん対策を推進し、全ての国民とがんの克服を目指す。」としております。

当院は県内で最も早く「緩和ケアの提供」を始めた病院です。

政府は第 4 期 がん対策推進基本計画(2023 年 3 月閣議決定)の全体目標を「誰一人取り残さないがん対策を推進し、全ての国民とがんの克服を目指す。」としております。

緩和ケア領域での新たな目標は、①「がんと診断された時から」の緩和ケアの提供、②がんになっても安心して生活し、尊厳を持って生きることのできる地域共生社会を実現すること、です。この目標達成のために当院では従来からの特長に加え、体制を以下のように強化いたしました。

- ①医師 2 名体制、②病床数倍増(差額ベッド代のない多床室も含む)、
- ③外来、入院患者の苦痛のスクリーニングの徹底、④緩和ケアチームによる毎日の病棟回診、
- ⑤外来患者の主科との同日並診、⑥看護外来での相談支援、
- ⑦地域のクリニックのバックベッド機能、⑧介護する家族のためのレスパイト入院受け入れ、
- ⑨音楽療法、⑩がんリハビリテーションを提供しております。

1)総合病院の中での緩和ケアの利点 ・病初期より終末期までの一貫した完結型のがん治療が可能 ・抗が

ん治療期より支持的治療に介入 ・がん患者の苦痛を、外来、入院とも、がん患者全員に苦痛のスクリーニングを行い、漏れの無い拾い上げ ・週 5 日の外来を開いていることで主治療科との同日併診が可能 ・非がん患者(心不全、呼吸不全、腎不全)の緩和ケア

2)県内で最も強力な緩和ケアチーム活動 ・チームによるアドバンスケアプランニング支援 ・チーム(緩和ケア内科医、腫瘍内科医、乳腺外科医、麻酔科医、心療内科医、認定看護師、専門薬剤師、公認心理師、管理栄養士、MSW、がん相談員、音楽療法士、ボランティア)の週 1 回のカンファレンスと 週 5 日の院内チーム回診

3)「ホスピス」「緩和ケア病棟」では得られない利点 ・「緩和ケア病棟」ほど厳しくない入棟条件 ・CART、輸血、中心静脈栄養など必要に応じて対処 ・在宅支援診療所との切れ目のない連携体制

4)プラスアルファのサービス ・特に乳がんが多い AYA 世代の患者へのがん相談員によるサポート。音楽療法のサービス、ボランティアによる傾聴などの積極的患者支持システム【ご紹介いただく際の留意事項】

入院面談、緩和ケア内科外来受診のいずれの予約は、当院地域医療連携センターを通して予約をお願いいたします。

【ご紹介いただく際の留意事項】

入院面談、緩和ケア内科外来受診のいずれの予約は、当院地域医療連携センターを通して予約をお願いいたします。

心療内科 完全予約制

部長 町田 貴胤

副部長 町田 知美

【特色】

現在心療内科は医師 2 名体制で診療を行っております。

対象疾患は心身症、ストレス関連疾患、摂食障害、機能性消化管障害など多岐にわたり、検査で異常がない原因不明の身体症状、いわゆる Medically-Unexplained Symptom の診療にも対応しています。病態が良く分からず何科に紹介すべきか迷うような症例などもぜひ御相談下さい。

また、入院治療も対象疾患の範囲で積極的に行っております。特に摂食障害については年齢制限を設けず、BMI<10 のような最重症例から軽症例に対する教育入院まで幅広く対応しております。

宮城県は摂食障害治療支援センター設置運営事業を行っており、東北大学病院を宮城県摂食障害支援拠点病院に指定しています。当科医師は支援拠点病院の非常勤医師として任命されており、治療支援事業に積極的に活動しています。

県内で心療内科の入院治療可能な施設は東北大学病院以外では当院のみであり、県内外を問わず積極的に入院適応症例を受け入れております。この診療案内をお読み頂いた先生方からの御紹介を、心よりお待ちしております。

【主な疾患】

心身症、ストレス関連疾患、摂食障害、機能性消化管障害

【ご紹介いただく際の留意事項】

新患は完全予約制です。当院地域医療連携センターを通して予約をお願いいたします。予約の際は、診療情報提供書その他検査結果等もご添付いただきたく存じます。

総合診療科 完全予約制

部長 小山 二郎

【特色】

人口の高齢化が進み疾病構成が大きく変化し、お一人で複数のご病気を持っている方、いわゆる多疾患併存の方がますます増えてきております。また、医療を取り巻く環境が大きく変わってきており、介護の比重が高まってきております。そのような患者さんたちを全人的・包括的に診療していくことが総合診療科の役割であり、使命であると考えます。その人の人生やご家族に寄り添い、その人の気持ちに共感しながら社会面や心理面からも診療する全人的なアプローチをしていきたいと考えております。介護・福祉を含めた保健活動など地域全体を見据えて患者さん中心の満足のいく診療を行っていきます。

【地域包括ケア病棟】

地域包括ケア病棟の常勤医師としても診療しております。レスパイト入院の必要なかたがございましたら、当パンフレット 17 ページもしくは当院ホームページをご参照いただき、「地域包括ケア病棟入院申込書」よりご紹介いただければ対応させていただきますのでお気軽にご相談ください。

【主な疾患】

日常診療で、あまり自分に馴染みのない訴えだと不定愁訴と決めつけてしまいがちですが、実は身体疾患が隠れていることが多々あります。まずは患者さんおひとりお一人から、ゆっくり時間をかけてお話をうかがいたいと思います。

問診や身体診察で診断病名の可能性を検討し、必要な検査を行って診断に近づいていきます。そのうえで適切な診療科・施設への紹介など行います。

登録医の先生方をお願いですが、簡単でかまいませんので臨床経過、投薬歴など記載していただければたいへん助かります。診療経過や診断等につきましては追ってご連絡さしあげます。いずれは登録医の先生方と顔の見える関係であるよう症例検討の場など開催できたらと考えております。何卒どうぞよろしくお願い申し上げます。

【ご紹介いただく際の留意事項】

新患は完全予約制です。当院地域医療連携センターを通して予約をお願いいたします。予約の際は、診療情報提供書その他検査結果等もご添付いただきたく存じます。

消化器外科

外科部長・消化器外科部長 成島 陽一

内視鏡外科部長・内視鏡下手術センター長 松村 直樹／肝胆膵外科部長・ヘルニア外科部長 野村 良平

外科部長 齋藤 匠

外科副部長 金原 圭吾

医師 佐藤 馨

【特色】

はじめに当院連携の先生方には日頃から多くの患者さんをご紹介いただき、また多方面でたいへんお世話になっておりますこと、この紙面を借りて厚く御礼申し上げます。

【2023 年手術実績】

消化器外科・大腸肛門外科 **2023 年の手術実績は 674 例**で、胃・大腸手術(主に悪性腫瘍)117 例、胆石などの胆道疾患(127 例)、ヘルニア(152 例)などの良性疾患手術のほか肝切除術・胆膵悪性腫瘍手術 43 例、虫垂炎(43 例)・腸閉塞(29 例)などの緊急疾患も多く行っています。腹部手術のほぼ3分の 2 が腹腔鏡下で行われています。当科では 1990 年代はじめにいち早く腹腔鏡下胆嚢摘出術に取り組み、以来腹腔鏡下手術においては東北地方の先駆的施設として、手術手技の向上・普及に努めてまいりました。

【内視鏡手術支援ロボットが導入されます】

当院では 2024 年度上半期に内視鏡手術支援ロボット(ダ・ヴィンチ Xi)が稼働いたします。消化器外科では主に小骨盤内での緻密な手術操作が求められる直腸癌手術に使用される予定です。癌手術においては根治性、安全性、機能温存、低侵襲を同時に実現すべく手術レベルの向上に努めてまいります。

【当科外科治療の現状】

下部直腸癌では、肛門機能の温存を図り通常の腹腔からの操作に加え肛門からもカメラと鉗子を挿入し直腸と直腸間膜を切除する**経肛門的直腸間膜切除術(TaTME)**を行っています。**腹腔鏡下肝切除術、一部の腹腔鏡下膵切除術も当科では保険診療で手術が行える施設認定を受けています。**消化器悪性腫瘍でも術前化学療法を治療戦略として位置づけられるようになり、当院腫瘍内科との緊密な連携のもと治療を行っています。**鼠径ヘルニア**では、再発症例も含め患者さんの病状・状態を充分精査して、術式や麻酔法方法も含め最良の手術方法を提供しています。最近では高齢化に伴い**食道裂孔ヘルニア**も増加傾向で、患者さんの症状・病態を考慮した手術も積極的に行っています。

【外科スタッフについて】

現在、医師8名(外科専攻医2名含む)、診療看護師1名の計9名のスタッフを、消化管(松村直樹)、肝胆膵・ヘルニア(野村良平、成島陽一)の 2 領域にそれぞれ**内視鏡外科技術認定医**をリーダーとして配するチーム制をとっています。日常診療において様々な状況で迅速に対応でき医療安全の面において、また若手医師の育成、病棟スタッフのスキルアップにも寄与するものと考えています。

【安心・安全を誓います】

患者さんには安心して手術を受けられますよう、また連携医の先生方には安心して患者さんをご紹介いただけますよう、外科スタッフ一同誠心誠意努めてまいります。今後とも労災病院外科をよろしくお願いいたします。

【主な疾患】

胆嚢結石症、総胆管結石症、急性胆嚢炎などの胆石症、胃癌、胃粘膜下腫瘍、大腸癌、肝胆道系悪性腫瘍（胆管癌、胆のう癌、十二指腸乳頭部癌、膵臓癌、肝細胞癌、胆内胆管癌、転移性肝癌）、そけいヘルニアなどのヘルニア疾患、急性腹症特に消化管穿孔、急性虫垂炎、腸閉塞など、その他消化器外科一般、外科の急性期医療

【診療実績】

2023年	腹腔鏡下手術	開腹手術	その他手術	計
胆嚢結石など	127	0	-	127
（総胆管結石）	(21)	0	-	(21)
大腸癌	65	8	-	73
胃癌	26	2	-	28
肝癌（原発性＋転移）	11	4	-	15
胆嚢癌	2	0	-	2
胆管癌	0	2	-	2
膵癌（IPMN含む）	1	8	-	9
炎症性腸疾患	19	13	21	53
ヘルニア	99	-	53	152
虫垂炎	43	0	-	43
その他	54	27	89	170
計	447	64	163	674

【ご紹介いただく際の留意事項】

鼠径ヘルニア・胆のうについては、専用のお申込書に記載して地域医療連携センターに FAX をしてください。（緊急の場合は当日および午後の診察可）

緊急性の高い患者さんの場合は、消化器外科外来(022-275-1111(代)から消化器外科外来へ)あるいは当科医師に直接ご連絡ください。緊急性のない新患の場合は、予約も承っております。予約希望の際は当院地域医療連携センターを通して予約をお願いいたします。予約の際は、診療情報提供書の他検査結果等もご添付いただきたく存じます。

大腸肛門外科

部長・炎症性腸疾患(IBD)センター長 高橋 賢一

部長 羽根田 祥

【特色】

大腸肛門外科は、炎症性腸疾患の外科治療と各種肛門疾患の外科治療を二本柱として診療を行っています。

炎症性腸疾患には潰瘍性大腸炎とクローン病があり、いずれの疾患も薬物など内科治療により炎症の落ち着いた状態、すなわち寛解状態に導入して、これを長く維持することが治療の原則となります。外科手術はこうした寛解導入や寛解維持が困難な場合に必要となり、潰瘍性大腸炎では疾患の根治と肛門温存の両立を図るための大腸全摘・回腸肛門吻合術が標準術式として行われます。またクローン病では狭窄や瘻孔など腸管合併症に対する腹部手術が行われ、また高率に合併する痔瘻など肛門病変に対する肛門手術が行われます。当院では大腸肛門外科と消化器内科の専門医で炎症性腸疾患センターを設立し、内科と外科の緊密な連携を図りながらこれら炎症性腸疾患の外科治療を多く手がけています。また炎症性腸疾患では学業や就労など社会活動にかかわる若年の患者さんが多いという特徴がありますが、早期の社会復帰を果たせるよう低侵襲な腹腔鏡手術の積極的な実施や、適確な周術期感染対策実施による術後合併症の予防に努めています。またきめ細かな術後復職支援を行っていることも当院の特徴になります。

肛門疾患では、いぼ痔(痔核)や切れ痔(裂肛)、痔瘻といった三大肛門疾患の手術に加え、「肛門から腸が出てくる」直腸脱に対する腹腔鏡下直腸固定術も多く手がけています。当院の特色としては、**肛門内圧測定**や**排便造影**などの専門的な直腸肛門機能検査を行っていること、**全身麻酔での手術も行えることから心疾患等で抗凝固薬内服中の患者さんの手術にも対応できる**ことが挙げられます。「たかが痔。」と軽く捉えられがちな肛門疾患ではありますが、その背景に思わぬ悪性腫瘍や炎症性腸疾患が潜んでいる可能性もありますので、軟膏外用などの保存的治療にて肛門症状の改善しない患者さんはぜひ当科への紹介をご検討ください。

大腸肛門外科の新患外来日は火曜日となりますが、内科治療抵抗性の炎症性腸疾患など症例の相談については随時対応可能ですので、お早めにご連絡をいただければ幸いです。

【主な疾患】

大腸癌、クローン病や潰瘍性大腸炎などの炎症性腸疾患、肛門疾患など

【診療実績】（年別手術件数）

	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
潰瘍性大腸炎	30	27	37	28	18
クローン病	36	32	40	35	42
痔核	20	19	17	18	15
痔ろう	24	21	18	23	31
裂肛	0	1	2	2	1
直腸脱	10	7	7	5	10
直腸腫瘍	0	1	1	0	0
直腸瘤	1	0	0	1	0
直腸肛門部腫瘍	13	13	10	10	4
その他	28	24	21	17	14
計	162	145	153	139	135

【ご紹介いただく際の留意事項】

新患外来日は火曜日となりますが、内科治療抵抗性の炎症性腸疾患など症例の相談については随時対応可能ですので、気軽にご連絡をいただければ幸いです(022-275-1111(代)から大腸肛門外科科外来へ)。新患の場合、予約も承っております。予約希望の際は当院地域医療連携センターを通して予約をお願いいたします。

乳腺外科

副院長・部長・乳腺センター長 本多 博

副部長 千年 大勝

【特色】

当院は日本乳癌学会の認定施設で、COVID-19 や病院移転問題の中、登録医を始め多くの医療機関より患者さんのご紹介をいただき、年間 180 例前後の手術(次ページ表参照)並びに多くの治療を行っております。この場を借りて皆様に深謝申し上げます。

本多・千年医師 2 名に診療看護師(NP)の 3 名体制に加え、病棟・外来で乳がん看護認定看護師に、手術では仙台乳腺クリニックに、2 階に移設した外来(2 室専用)では乳腺専門医(木曜+本年 4 月～水曜)に診療応援いただいております、平日全曜日に紹介受入可能となりました。

当科の乳がん診療の特色として以下の 2 点が挙げられます。

1)病理医 3 名(常勤 2・非常勤:東北大医師)の強みを活かして、RI・色素法併用によるセンチネルリンパ節生検(2mm 切片検索)と温存術切除断端(4 方向)の迅速病理診断を行い、高い同定率と正確な診断で郭清省略とリンパ浮腫予防に加え、根治性を高めています。また、病理技師の協力もあり、針生検で約 1 週

間・手術標本で約 2 週間で免疫染色を含む病理結果をお伝えしています。

2)乳腺センターとして、週 1 回、腫瘍内科・緩和ケア内科・放射線治療医、看護師(乳がん看護・がん化学療法看護・緩和ケア認定、入退院支援)、薬剤師(外来・病棟・調剤薬局)による多職種の乳腺カンファレンスを行い、両立(就労)支援コーディネーターを加え、チーム医療で患者さんに最適な治療・支援を受けていただく体制を構築し、きめ細かい対応と情報共有並びに患者さんの社会復帰に努めております。また、術前・術後化学療法(特に dose dense 治療や免疫療法等)は腫瘍内科、照射は放射線治療医、再発後のケアは緩和ケア内科と協同で対応しています。

乳房再建は東北大学形成外科と共同で行い、2019 年からは特別認定施設の認定を受け、二次再建等も可能となりました。2018 年より術前患者さん対象に HBOC(遺伝性乳がん卵巣がん症候群)のスクリーニング及び認定遺伝カウンセラー(非常勤:石巻赤十字病院)による遺伝カウンセリング(第 1 木曜)を行い、院内で BRACA 検査等に対応しています。更に 2022 年 12 月よりソシオエスティシャン(非常勤)による(化学療法に伴う)アピアランスケア外来(第 1・3 金曜、無料)を立ち上げ、好評を博しております。リハビリ科・作業療法士(OT)による乳がん手術全例の術前・術後評価を含むがんリハビリ体制も確立し、体脂肪量(乳がんリスク因子)の減少を目的に管理栄養士による栄養管理・InBody 測定を行い、チーム医療の輪を拡げております。

対面での患者サロン・患者会が復活しており、更なるピアサポート対応および AYA(世代)サポートチーム立ち上げが今後の課題です。

【専門分野】

乳腺外科、乳がん治療

【診療実績】(年別手術例数)

	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
原発乳がん(うち両側)	159(1)	142(0)	141(4)	171(4)	155(3)
温存(率)	80(50%)	81(57%)	84(58%)	77(48%)	81(52%)
全摘	80	61	61	98	74
乳房再建(TE)	6	7	4	4	4
再発など悪性	9	9	4	10	7
良性・その他	19	13	25	15	15
計	187	166	170	196	177

【ご紹介いただく際の留意事項】

受診には紹介が必要とさせていただき、新患の方は地域医療連携センターにてご予約可能で、急ぎの場合は枠を増やしてお待たせしないよう最大限努めております。紹介状があれば、患者さんの利便に考慮して、月水木金曜の午前に予約なしで受診可能とはしておりますが、予約優先にてお待ちいただくことをご

容赦下さい。予約の際は、診療情報提供書の他検査結果等もご添付いただきたく存じます。



マンモグラフィ検査装置
今年度秋頃に機器を
更新いたします。

脳神経外科

部長 高橋 智子

【特色】

当科では、主に脳卒中や頭部外傷などの診断と治療を行っています。開頭術や血管内治療には対応できないため、発症からのタイミングや重症度によっては他院を紹介させていただくことがありますが、ご相談いただければ適切な治療を受けていただけるように対応いたします。頭痛やめまいなど、脳の病気かもしれないと不安に思う症状がある場合にも、当科外来で検査を受けていただくことが可能です。

また2018年から、高齢者に多く発症する慢性硬膜下血腫に対する穿頭術を行えるようになりました。安全に治療できるよう、適応を十分に検討して対応しています。対象となる患者さんがいらっしゃいましたら、どうぞお気軽にご紹介いただければ幸いです。

【主な疾患】

脳梗塞、脳出血、頭部外傷、慢性硬膜下血腫、一次性頭痛、てんかん、脳腫瘍など

【診療実績】

	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
慢性硬膜下血腫に対する穿頭術	15	19	10	8	8

【ご紹介いただく際の留意事項】

発症後数時間以内の、脳卒中の超急性期の患者さんは、一次脳卒中センターへの紹介を推奨します。当科にて緊急に診察をご希望の場合は、直接電話にてご連絡いただければ幸いです。受診予約も承っております。予約希望の際は当院地域医療連携センターを通して予約をお願いいたします。予約の際は、診療情報提供書の他検査結果等もご添付いただきたく存じます。

呼吸器外科

部長 保坂 智子

【特色】

呼吸器外科は常勤医は1人ですが、手術時は東北大学病院呼吸器外科の医局の先生方に来ていただき、行っています。

対象疾患は、呼吸器疾患全般であり、**原発性肺癌、転移性肺腫瘍、若年者から高齢者までの気胸、縦隔腫瘍、胸膜腫瘍、膿胸、間質性肺炎疑いの肺生検等の手術**を行っております。手術が中心であります。処置が必要な**外傷性多発肋骨骨折による血気胸**の患者さんも受け入れております。

手術は、できるだけ低侵襲手術を心がけております。

原発性肺癌は、現在は9割は完全胸腔鏡下(3ヶ所の皮切(2、3、4cm))で手術を行っております。痛みも以前と比べてだいぶ軽減し早期に社会復帰ができております。またご紹介のおかげで年々原発性肺癌の手術件数は増加しております。

縦隔腫瘍は、前縦隔腫瘍に対しては、胸骨正中切開アプローチではなく、胸腔鏡下に炭酸ガスを送気し、人工気胸下で3ヶ所ないし4ヶ所数cmの皮膚切開で手術を行っております。

後縦隔腫瘍に対しても、基本的には胸腔鏡下で手術を行っています。

その結果、患者さんは早期退院、社会復帰ができております。

若年者の気胸は、2ヶ所、1.5cmほどの小切開での胸腔鏡下手術を行い、術後2~3病日には退院されています。

また、若年者の気胸以外は、術後も術前と同様の生活ができるように、当院では呼吸器リハビリテーションを積極的に取り入れております。入院当日~手術前日、術翌日~退院日まで理学療法士がマンツーマンで呼吸法、排痰法等の指導、筋肉が拘縮しないような運動を一緒に行っていただいております。患者さんからの評判もとても良好で、すたすた歩いて退院されます。

外来は基本的に月曜日、金曜日ですが、緊急を要する患者さんの場合は、直接ご連絡いただけましたら、速やかに対応させていただきます。

今後も患者さんに沿った治療を行いますので、様々な患者さんのご紹介を何卒宜しくお願い申し上げます。

【主な疾患】

呼吸器疾患全般(肺癌、縦隔腫瘍、転移性肺腫瘍、自然気胸、肺嚢胞、急性膿胸など)

【ご紹介いただく際の留意事項】

外来は基本的に月曜日、金曜日ですが、緊急性の高い患者さんの場合は、**呼吸器外科外来(022-275-1111(代)から呼吸器外科外来へ)**あるいは当科医師に直接ご連絡ください。速やかに対応させていただきます。予約の際は、診療情報提供書その他検査結果等もご添付いただきたく存じます。

整形外科

院長 井樋 栄二

副院長・脊椎外科部長 日下部 隆／脊椎外科部長 松谷 重恒／外傷・関節外科部長 小河 裕明

関節外科部長・股関節センター長 千葉 大介／関節外科部長・膝関節センター長 國井 知典

関節外科部長 奥野 洋史、品川 清嗣

医師 信田 進吾、宮坂 沙也加

【特色】

当科における 2023 年度(2023 年 4 月～2024 年 3 月、整形外科医師 11 名)の年間手術件数は 2,137 件(全身麻酔:1,071 件)、年間新患数は 2,977 人でした。2024 年 4 月からは整形外科医師 12 名での診療体制となっています。

脊椎外科は日下部、松谷、宮坂、専攻医の 4 名が担当し、脊椎変性疾患、リウマチ性脊椎疾患、脊椎外傷ならびに脊髄腫瘍の手術を行なっています。

関節外科は第一関節外科(千葉、國井、専攻医)、第二関節外科(奥野、品川、専攻医、井樋、信田)、外傷・関節外科(小河、専攻医)で、各種人工関節置換術、肩関節・膝関節の関節鏡視下手術、リウマチ関節外科手術、末梢神経障害に対する神経剥離術・移行術、機能再建術、四肢の骨折・脱臼の治療を行なっています。尚、四肢の切断・再接着は仙台医療センターに依頼し、悪性骨軟部腫瘍は東北大学病院へ紹介しております。脊椎・四肢の外傷、骨折はなるべく臨時で手術ができるよう尽力しておりますので、患者さんのご紹介をお願い申し上げます。

【主な疾患】

- 上肢・下肢の骨折、腱断裂、神経断裂、脊椎の脱臼・骨折、脊髄損傷などの外傷
- 頸椎症性脊髄症、後縦靱帯骨化症、腰部脊柱管狭窄症、腰椎椎間板ヘルニア、脊髄腫瘍などの各種脊椎脊髄疾患
- 変形性股関節症、変形性膝関節症などに対する人工関節置換術や骨切り術、膝関節鏡による鏡視下手術
- 各種肩関節疾患の鏡視下手術、変形性肘関節症
- 末梢神経障害に対する神経剥離術、手根管開放術、麻痺に対する機能再建術
- 関節リウマチの関節変形や上位頸椎疾患などに対するリウマチ関節・脊椎手術

【脊椎外科】

脊椎外科の手術は、高位別では頸椎が約 28%(うち上位頸椎が約 5%)、胸椎が約 8%、腰仙椎が約 64%です。

疾患別では腰部脊柱管狭窄症が最も多く、次いで頸部脊髄症(含 後縦靱帯骨化症)、腰椎椎間板ヘルニアの順となっており、リウマチ頸椎病変(上位頸椎疾患)や Chiari 奇形などの頭蓋頸椎移行部病変、脊髄腫瘍(硬膜内腫瘍・硬膜外腫瘍)といった特殊な疾患にも対応しております。

また、近年は脊椎内視鏡下手術も本格導入しており、患者さんのニーズに合わせた診療を心懸けております。

【関節外科】

2023 年度から、第一関節外科は下肢(股関節、膝関節)を中心に、第二関節外科は上肢(肩関節、肘関節、手・手関節)とリウマチ性疾患を中心に、外傷・関節外科は関節外科全般と外傷を中心に診療を行なっています。

また、2023 年 7 月に「股関節センター」、2024 年 6 月に新たに「膝関節センター」を開設し、整形外科領域の手術支援ロボット「ROSA®(RObotic Surgical Assistant)」も導入しました。

【診療実績】

	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
骨折観血的手術	137	134	134	132	194
骨移植術	84	110	160	172	301
人工関節置換術 (肩)	1	34	20	9	16
人工関節置換術 (股)	96	126	117	138	270
人工関節置換術 (膝)	128	106	75	142	162
脊椎固定術、椎弓切除術、椎弓形成術	151	112	123	110	102
超音波骨折治療法	14	40	60	62	76
関節鏡下半月板切除術	0	3	32	58	96
関節鏡下半月板縫合術	0	1	17	53	35
計	611	666	738	876	1,252

【ご紹介いただく際の留意事項】

当科への患者さんのご紹介は地域医療連携センターを通していただければ円滑に進みますが、手続きが面倒な場合や緊急性の高い患者の場合は直接整形外科外来(022-275-1111(代)から整形外科外来へ)直接ご連絡いただければ、可能な限り対応させていただきます。また、脊椎外科予約の際は、診療情報提供書その他検査結果等もご添付いただきたく存じます。

【股関節センター・膝関節センター】

人工股関節手術及び人工膝関節手術をいち早く導入・早期治療、早期社会復帰をトータルサポート
豊富な手術実績

当院の整形外科は、東北地区でいち早く人工股関節手術及び人工膝関節手術を導入した実績があります。

中でも人工関節置換術は、2023 年度実績で股関節 270 件、膝関節 162 件の実施件数を有しています(2023 年度総人工関節置換術件数:448 件)。

高度な設備と技術力でサポート

人工関節置換術は、軟骨の摩耗などによって悪くなった関節部分の骨を取り除いて、金属やポリエチレンなどの人工関節に置き換える治療法で、関節の痛みの原因をすべて取り除くため、手術後は痛みのない日常生活に戻ることが可能となります。

当院では、人工関節を中心とした手術治療を効率よく効果的に提供するため、2023 年 7 月開設の「股

関節センター」に続き、2024 年 6 月新たに「膝関節センター」を開設しました。

股関節センターでは、バイオクリーンルーム 2 室を完備した手術室や、骨の保存庫としての機能を持つボーンバンク、仙台市内でも最大級の広さと人員を誇るリハビリテーション室など、高度な設備と技術で早期治療、早期社会復帰をサポートしています。

膝関節鏡

半月板損傷、靱帯損傷、軟骨損傷、変形性膝関節症などの治療で関節鏡を使用し、生活の質を向上させることを目指しています。小さな切開口から関節鏡を挿入するため、組織の損傷が少なく、手術後の痛みも軽減されます。回復が早く、日常生活への早期復帰が可能です。

膝周囲骨切り術

膝関節の変形や痛みを改善するための手術です。特に、変形性膝関節症や膝周囲骨壊死に行います。この手術は、骨を切ることで膝の負担がかかる部分を移動し、病変部の関節にかかる負担を減らすことを目的としています。

手術の具体的な方法としては、膝周囲の骨を一部骨切りし、新たな角度で再固定することで、膝関節にかかる力の分布を変えます。これにより、関節の痛みが軽減され、機能が改善されることが期待されます。膝骨切り術は、人工関節置換術の前段階として行われることが多く、特に若年層や中年層の方やスポーツ、運動を希望している方に適しています。

膝の構造や軟骨の状態に応じてオーダーメイドに術前計画をします。術後のリハビリテーションも重要な要素で、平均的な入院期間は3週間です。

一人一人のニーズに向き合い最適な治療方法を提供します

専門医による疾患(変形性関節症、関節リウマチ、大腿骨頭壊死症、外傷性関節炎等)、患者年齢等に対応した人工関節手術、骨切り手術および保存治療の専門的かつ適切な医療の提供を行います。

患者さんごとに状態や症状は違います。治療の選択肢は様々あります。当センターでは患者さん一人一人の訴えにしっかり向き合い、その患者さんに最も良い治療法を考えていきます。

対象疾患は、変形性股関節症、寛骨臼形成不全症、大腿骨頭壊死症、外傷などになりますが、乳幼児の股関節疾患にも対応しています。股関節の辺りが痛いけどよく分からないということでも構いませんので、お気軽に「股関節センター」にご相談ください。

【手術支援ロボット】

手術支援ロボット「ROSA®」でより安全な手術を提供

「ダヴィンチ」の普及により、ロボット支援下の外科手術が一般的になりつつありますが、当院では宮城県内のどの病院よりもいち早く人工関節手術支援ロボット「ROSA®（RObotic Surgical Assistant）」を導入しました。

この手術支援ロボット「ROSA®」は、変形性膝関節症や変形性股関節症の手術治療のひとつである人工膝・股関節置換術で使用されます。ROSA®によるサポートにより、骨切りの角度や人工関節の設置位置などを 0.5°、0.5mm といった細かな単位で術中に微調整が可能となるため、これまで術者の経験にゆだねられていた様々な点をロボットがアシストすることによって、低侵襲で合併症リスクの少ない手術を目指すことが可能になります。患者さんにより安全な手術を提供することができます。

当院では保険適用で ROSA®支援下手術を受けることができます。



【今日の整形外科治療指針】

井樋、信田、日下部はその領域の臨床経験が豊富かつ最前線で指導的立場にあるため、これまでの整形外科医療の進歩を踏まえたうえで up-to-date で実践に即した「今日の整形外科治療指針(第 8 版)」を分担執筆しています。当科では現時点における最良の治療を提供することができます。



【東北労災病院整形外科談話会】

当科では「東北労災病院整形外科談話会」を開催しております。会場参加が可能になれば症例検討会も行いますので、お気軽にご参加いただけますと幸いです。

救急科

部長・外科第二部長 赤田 昌紀

【特色】

当院は仙台市中心部に位置する2次救急病院として 24 時間 365 日救急車の受け入れに対応しております。当科の診療対象は入院・手術等が必要な重症患者さんです。救急車で搬送された方について初期診療を行ってバイタルサインを安定させつつ速やかに適切な診療科に引き継ぐ事を目的としていますが、一部重篤な患者さんについては集中治療室での入院・全身管理を受け持っています。

当科開設以来、救急車の受け入れ台数は右肩上がりですが、特に新型コロナウイルスの影響も一段落した昨年度は過去最高でありました。増え続ける救急車に対応するために、今年度は新たに診療看護師 1 名と救命救急士が救急外来に配属となり、また救急外来のレイアウト変更も予定されております。当院かかり付けの患者さんや、青葉区、泉区など当院周辺にお住まいの方が遠方に救急搬送されることなく地域内で医療が完結されることを目標として、引き続き断らない救急を目指して院内体制の整備を進めてまいります。

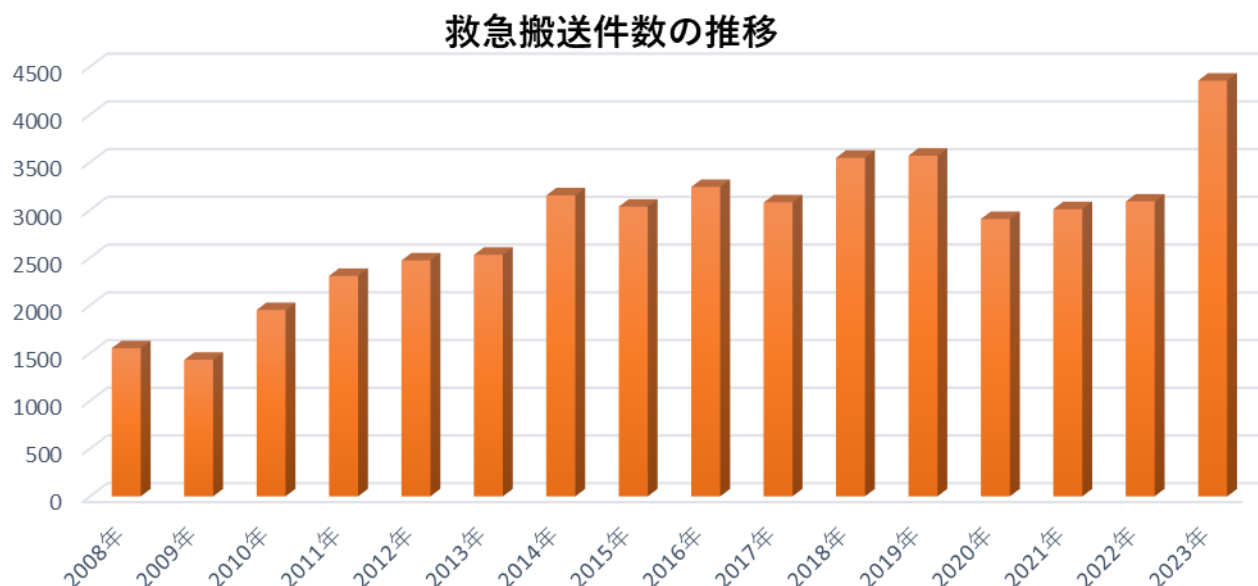
す。

【主な疾患】

心肺停止(CPA)、敗血症性ショック、多発外傷

【ご紹介いただく際の留意事項】

当院に救急搬送される際には、まず担当診療科までご一報頂けましたら幸いです。



小児科

副院長・部長 千葉 靖

部長 高柳 玲子、沼田 美香

【特色】

こどもが小児科受診、あるいは入院を必要とする原因の多くは感染症とその関連疾患です。東北労災病院小児科は、常勤医師の 3 名全員が小児感染症学会認定医の資格を有しており、感染症の診断と治療を重点に日常診療を行っています。細菌検査室の協力により、できる限り当日～数日以内に病原診断を行うことで速やかに治療方針の決定がなされるよう努め、綿密なディスカッションを繰り返しながら、個々に適切な診療を行うことを心がけています。さらに耳鼻咽喉科など他科との連携のもと、合併症の早期発見・早期治療にも力を入れています。

一方、常勤医の 1 名が日本腎臓学会専門医であることから、血尿・蛋白尿等の尿異常、尿路感染症、夜尿症等の小児腎尿路疾患の診断・治療も、当科のもうひとつの柱となっています。仙台市より、3 歳児検尿二次精密検査施設(腎臓専門医療機関)の指定を受けており、市内のクリニックでの一次精密検査の結果陽性となった児をご紹介いただくことで、先天性・遺伝性腎疾患など慢性腎臓病ハイリスク児の発見に努めています。

いま小児医療は、疾病対応から健康支援への大きなパラダイムシフトの時期を迎えています。当科は高度少子化時代の到来を見据え、こどもの健康と疾病予防をサポートすべく乳幼児健診に対しても積極的に取

り組んでいます。併せて行っている育児相談、栄養指導、予防接種もたいへん好評をいただいております。また、妊娠・出産・子育て世代の女性に好発する子宮頸癌を予防するため、ヒトパピローマウイルス(HPV)ワクチンの定期接種およびキャッチアップ接種を推進しています。皆様のご期待に沿える小児科を目指しておりますので、ぜひ当科への紹介をご考慮いただきますよう何卒よろしくお願いいたします。

【主な疾患】

小児感染症、呼吸器感染症、消化器感染症、耳鼻科・皮膚科領域と関連した感染症、尿路感染症、小児腎疾患、先天性腎尿路異常、夜尿症、小児気管支喘息(発作時の治療及び長期的な治療)

【ご紹介いただく際の留意事項】

当科にご紹介をお考えの際は、まずお電話でご相談いただければ幸いです。なお現在、発熱等の急性期症状がある場合は、病院北側(第一駐車場内)に設置中の「発熱者専用入口」から小児科隔離室へ直接ご案内しております。また小児科専用の「問診票」を用意し、なるべく病院到着までにご記入を完了いただくようお願いしています。

なおご紹介の際、診療情報提供書をご家族にお渡しいただくのと同時に、地域医療連携センターにFAXを送信いただきますと、ご到着までに電子カルテIDを取得の上、状況に応じ速やかに診療を開始することができます。ご協力のほどよろしくお願いいたします。

皮膚科 完全予約制

部長 黒木 茂

医師 瀬川 優里恵、奥田 早紀

【特色】

皮膚疾患全般を幅広く取り扱っています。患者の皆さんには日本の現代皮膚科の標準治療をします。その上で皆さんの意志や日常生活における満足度を尊重した治療方針の選択を常に心がけます。当院は急性期の疾患を扱うことを主としており、症状が落ち着いた場合には紹介元の病院に逆紹介をしたり、信頼できる開業医の先生に今後の加療をお願いすることがありますので、診察時にご相談ください。

- 外来通院加療のみならず、適宜入院加療を行っています。
- 紫外線療法(Narrow-band UVB 療法)を行っています。
- 自費診療として男性型脱毛症の内服治療も扱っています。
- 尋常性乾癬、掌蹠膿疱症、化膿性汗腺炎、壞疽性膿皮症に対する生物学的製剤使用承認施設です。
- アトピー性皮膚炎に対する生物学的製剤の治療も当院で受けられます。

【主な疾患】

- 湿疹、皮膚炎、皮膚掻痒、アトピー性皮膚炎
- 細菌性皮膚感染症(とびひ、丹毒、蜂窩織炎)、にきび・真菌感染症(水虫、カンジダ症、癬風)
- ウイルス性感染症(いぼ、水いぼ、水痘、麻疹、带状疱疹、単純ヘルペス)
- 中毒疹(薬疹を含む)
- 尋常性乾癬、掌蹠膿疱症

- 皮膚外傷、熱傷(やけど)、外傷後瘢痕・自己免疫水疱症(天疱瘡、類天疱瘡)
- 血管炎(アナフィラクトイド紫斑病、アレルギー性血管炎)
- 皮膚潰瘍(うっ滞性、動脈性、糖尿病性、外傷性)
- 皮膚腫瘍(良性腫瘍、悪性腫瘍)
- 爪、毛髪の疾患(陥入爪、爪囲炎、爪水虫、爪変形や変色、脱毛症)
- 色素異常疾患(尋常性白斑、あざ、しみ)

【主な検査・医療機器】

全身型紫外線照射装置

8 面からくまなく光線を照射する装置で乾癬や難治性皮膚炎の治療に使用します。ナローバンド UVB と UVA があります。



全身型紫外線照射装置

【ご紹介いただく際の留意事項】

新患は完全予約制です。当院地域医療連携センターを通して予約をお願いいたします。他院からの紹介や新患人数が非常に多く、予約患者人数が飽和状態になっております。そのため予約時間になりましてもお待ち時間が長くなっており、大変申し訳ありません。

【再来受診の留意事項】

皮膚科外来受診は午前中のみで、午後は手術や検査などのため、予約のための再来は行っておりません。

予約外受付は平日 8 時 15 分から 10 時までになっており予約の方が優先のため待ち時間が長くなります。

電話での予約は行っておらず、診察の時に次回の予約をとるシステムになっております。

予約をお持ちの方で都合が悪くなり変更を希望する場合は、平日午後3時～午後4時 30 分までに皮膚科外来(022-275-1111(代)から皮膚科外来)にお電話をいただけますと変更が可能です。

泌尿器科 完全予約制

部長 阿部 優子／部長 工藤 貴志

副部長 櫻田 祐

【特色】

泌尿器科は腎、尿管、膀胱、男性生殖器を治療対象として、感染症、腫瘍、外傷、排尿障害などの機能障害の診断から治療までを一貫して行う科です。

悪性腫瘍は腎癌、腎盂尿管癌、膀胱癌、前立腺癌、精巣腫瘍などがあり、手術・化学療法・緩和治療を行っ

ております。腎癌や尿路上皮癌については手術不能例や化学療法無効例に対し分子標的薬・免疫チェックポイント阻害薬といった新しい薬物治療が適応となり、治療を受ける患者さんの数は増加しております。従来の抗癌剤の化学療法とは違った種々の副作用の発現があり、総合病院のメリットを生かし、各科にコンサルトして副作用対策を行っております。

近年、患者さんにもよく知られてきた過活動膀胱に対しては、行動療法、薬物治療の他、難治例に対しボトックス療法(ボツリヌス毒素の膀胱壁注入療法)が保険認可され、当院でも治療数が増加しております。また、畜尿時の痛みを特徴とする間質性膀胱炎の診断、水圧拡張術、ジムソ膀胱内注入療法も行っております。

高齢、認知機能障害のある入院患者さんについては、治療だけでなく退院後の生活についても、家族、ケアマネージャー、かかりつけの医療機関等と協力し対応に取り組んでおります。

2023 年度からは常勤3名、非常勤1名の医師で診療にあたっております。常勤医師が減ったこともあり、外来は完全予約制とさせていただきましたが、これまでの新患予約枠は週4枠から週10枠に増加し対応させていただいております。さらに救急対応が必要な方については、その都度、ご連絡いただければ可能な範囲で診療させていただきたいと思っております。

ご迷惑おかけすることも多々あるかと思いますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

【主な疾患】

- 悪性腫瘍:膀胱癌、腎盂・尿管癌、腎癌、前立腺癌、精巣腫瘍など
- 良性腫瘍:前立腺肥大症など
- 神経因性膀胱:脊髄損傷、脳血管障害、骨盤内手術後遺症、糖尿病性神経因性膀胱など
- 中毒疹(薬疹を含む)
- 女性泌尿器科疾患:尿失禁、膀胱脱、性器脱など夜尿症
- 尿路損傷:尿道損傷、腎損傷、膀胱損傷など
- 尿路・精路の感染症:膀胱炎、腎盂腎炎、尿道炎、前立腺炎、精巣上体炎など
- 結石:腎、尿管、膀胱結石

【診療実績】

	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
体外衝撃波腎・尿管結石破碎術	17	27	35	23	16
腎(尿管)悪性腫瘍手術	9	9	15	10	4
経尿道的尿管ステント留置術	131	176	171	172	177
膀胱悪性腫瘍手術(経尿道的手術)	100	110	120	110	76
包茎手術(背面切開術)	3	7	0	7	6
陰嚢水腫手術	7	1	4	7	5
前立腺針生検法	84	97	137	145	106
膀胱脱手術(メッシュを使用するもの)	26	19	19	32	12
計	377	446	501	506	402

【ご紹介いただく際の留意事項】

新患は完全予約制です。当院地域医療連携センターを通して予約をお願いいたします。予約の際は、診療情報提供書その他検査結果等もご添付いただきたく存じます。

耳鼻咽喉科

部長 渡邊 健一／部長 織田 潔

医師 齋藤 雄太郎 佐藤 悠歩

【特色】

耳鼻咽喉科医 5 名(専門医 3 名うち指導医 2 名)で耳鼻咽喉科の全領域を対象とした診療を行っています。

当科の診療内容ですが

①特に力を入れているのが耳疾患の治療です。慢性中耳炎に伴った難聴の聴力改善手術や真珠腫性中耳炎に対する鼓室形成術の症例が多く、最近では低侵襲な耳内視鏡下手術(TEES)の適応も拡大してきており、良い治療成績をあげています。重度の難聴に対しては人工内耳手術を積極的に行い、東北地方では最大の症例数となっています。言語聴覚士2名が専任で人工内耳リハビリテーションに携わっています。

②鼻疾患においては 4K 内視鏡のクリアな術野のもと精密で安全な鼻内視鏡下手術を遂行しています。増加しつつある指定難病の好酸球性副鼻腔炎の手術治療も積極的に行っており、内科的治療も含め患者さんの QOL を上げるような治療を心掛けています。

③喉頭疾患として、早期喉頭癌手術(CO2 レーザーを用いた鏡視下喉頭悪性腫瘍切除)や音声障害を改善する音声外科手術(喉頭微細手術、喉頭枠組み手術)を行っています。

④顔面神経麻痺の治療はステロイド治療を主とした早期介入が必要です。リハビリテーション科とも協力して後遺症の軽減に取り組んでいます。

⑤唾液腺、甲状腺、頸嚢胞といった頸部手術の経験も豊富です。【主な疾患】

慢性中耳炎、難聴、好酸球性副鼻腔炎、早期喉頭癌、顔面神経麻痺

【主な疾患】

慢性中耳炎、真珠腫性中耳炎、難聴、好酸球性副鼻腔炎、早期喉頭癌、顔面神経麻痺、唾液腺腫瘍

【診療実績】

	2022年	2023年
口蓋扁桃摘出術	123	146
内視鏡下鼻・副鼻腔手術	73	43
鼓膜・鼓室形成術	57	74
鼻腔形態手術（鼻中隔、下鼻甲介）	41	13
喉頭微細手術（悪性腫瘍含む）	18	16
耳下腺腫瘍摘出術	17	19
顔面神経減荷手術	11	9
人工内耳手術	7	6
計	347	326

【主な検査機器】

聴覚機能検査装置（純音聴力検査・語音聴力検査・耳鳴検査・聴性脳幹反応検査・耳音響放射検査、ティンパノメトリー・耳小骨筋反射）

耳管機能検査

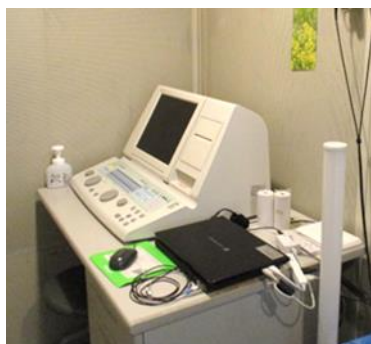
顔面神経麻痺検査（ENoG）

平衡機能検査

電子内視鏡・ファイバースコープ（内耳・鼻腔・咽頭、喉頭など）

頸部超音波検査

聴覚機能検査装置



純音聴力検査・語音聴力検査・
耳鳴検査装置



聴性脳幹反応検査装置

超音波検査装置



内耳機能検査装置



ティンパノメトリー

電子内視鏡



【ご紹介いただく際の留意事項】

当院の地域医療連携センターを通じた外来予約枠は火・水・木曜日にありますので、是非ご活用いただきたいです。当日でも紹介状を持参していただいた場合は、待ち時間はご容赦いただいた上で対応いたします。

眼科

部長 植松 恵

医師 武田 瑤子

【特色】

いつも大変お世話になり誠にありがとうございます。

当科の特徴としては、白内障手術とメディカル網膜の診療があげられます。

昨年、白内障手術の器械が新しくなり、より精力的に手術を行っております。手術は、日帰りか入院を選ぶようになっております。入院の場合は、局所麻酔は1泊2日、全身麻酔は2泊3日の入院です。全身疾患をお持ちの方も他科と連携して対応しておりますので、是非ご紹介下さい。

メディカル網膜の診療については、東北大から網膜専門医の応援も頂きながら、加齢黄斑変性、糖尿病網膜症、網膜静脈閉塞症などに対応しております。

抗 VEGF 製剤の硝子体注射、網膜光凝固術などを組み合わせて最善の治療を目指しております。抗 VEGF 製剤の硝子体注射は即日対応できる体制を整えており、注射件数は年々増加しております。手術適応のある方は、すみやかに東北大学病院へご紹介させて頂いております。

設備としては、FA/IA が可能な眼底カメラ、眼底 OCT、ヘスチャート、ハンフリーフィールドアナライザー、ゴールドマン視野検査、パターン照射可能なマルチカラーレーザー光凝固装置、YAG レーザー、ERG (setERG,mulifocalERG も可能)、波面センサー(KW-1W)、フレアセルメーターなどの機器もそろっておりますので、幅広く対応可能です。

当科外来は予約制となっております。地域医療連携センターを通じて初診予約をおとり頂きますと、待ち時間も少なくなりますので、是非ご活用下さい。緊急の際は電話でご相談頂ければ適宜判断させて頂きます。スムーズな診療のため、ご協力のほど何卒よろしくお願い致します。

今後も地域の中核病院として役割を果たしていきたいと思っておりますので、皆様どうぞよろしくお願い申し上げます。

【主な疾患】

白内障、加齢黄斑変性、糖尿病網膜症、網膜静脈閉塞症

【診療実績】

	2022年	2023年
水晶体再建術	537	626

【ご紹介いただく際の留意事項】

新患の場合、予約も承っております。予約希望の際は当院地域医療連携センターを通して予約をお願いいたします。

リハビリテーション科 完全予約制

部長 原田 卓／部長 安達 理

【特色】

労災病院のリハビリテーションは、**脊髄損傷**などに代表されるような、労働災害で障害を負った患者さんのリハビリテーションの長い歴史があります。よって経験豊富なリハビリテーションスタッフと充実した設備を保有しています。また当院は東北でも有数の整形外科の基幹病院で、**スポーツ整形、脊椎外科、関節外科**など充実しており、そのリハビリテーションが行われています。脳血管疾患も脳神経外科医師と連携し、リハビリテーションを行っております。

外科手術後の患者さんに対しても**早期離床・早期退院に貢献するリハビリテーション**や、内科・外科の重症患者さんの**廃用症候群の予防や回復を図るリハビリテーション**を行っています。

特に循環器疾患に関しましては、**心臓リハビリテーション指導士 2 名の体制で、心大血管術後の特に合併症のある方の入院リハビリテーションや、狭心症・心筋梗塞・心不全の再発予防を図る外来通院リハビリテーション**などを行っています。循環器疾患患者さんのリハビリテーションでは、可能な方には心肺運動負荷試験を行い、科学的評価に基づいた安全なリハビリテーションの実践に努めています。外来心臓リハビリテーション前にリハビリテーション医が必ず診察し、リハビリテーション施行前の状態を確認してから行っています。

また、がん拠点病院として、**担癌患者さんのリハビリテーションにも努めております。特に乳がん患者さんのリンパ浮腫や拘縮の予防・治療のリハビリテーションなどを積極的に行っています。**

加えて、高齢化によって誤嚥性肺炎の疑われる患者さんの嚥下の評価(嚥下造影など)や訓練も需要も増しており、科によらず誤嚥が疑われる患者さん、ならびに誤嚥性肺炎の患者さんの**嚥下リハビリテーションも積極的に取り組んでおります。**

2022 年からは、耳鼻咽喉科の先生方と協力し、**顔面神経麻痺のリハビリテーション(入院・外来)も新たに開始いたしました。**

加えて、人工透析中の**腎臓リハビリテーション(外来)**も開始しております。

【主な疾患】(リハビリ対象疾患、以下疾患に対応)

- 脳卒中、脊髄損傷などの脳神経系疾患(急性期から回復期まで、Botox 治療も施行)
- 関節筋疾患(切断、義手・義足、装具など、筋電動義手も対応)
- 心大血管疾患(心筋梗塞後、心不全、心大血管手術後、特に術後の脊髄梗塞など多数経験)
- 呼吸器疾患(COPD など)
- がん患者さんのリハビリテーション(乳癌術後リンパ浮腫や緩和的リハビリテーションも含む)
- 廃用症候群(救急疾患や外科手術後など急性期病変後)
- 嚥下障害のリハビリテーション(嚥下造影)
- 顔面神経麻痺のリハビリテーション

【ご紹介いただく際の留意事項】

新患は完全予約制です。当院地域医療連携センターを通して予約をお願いいたします。臨床経過、リハビリテーション経過、現在の ADL、画像データ(CD)など送っていただくと助かります。当科ホームページから専用の申し込み用紙をダウンロード可能です。よろしければ、ご利用ください。脳卒中連携パス、MMWIN/スマイルネットも使用可能です。

放射線治療科 完全予約制

部長 田邊 隆哉

【特色】

当科では標準的な放射線治療を Elekta 社のリニアック Versa HD を用いて三次元原体照射で行っております。

声門癌、肺癌、食道癌、肝臓癌、膀胱癌、前立腺癌、皮膚癌等の根治的放射線治療を、化学療法併用の場合は各臓器の主治医科のご協力のもと行っております。肺癌や肝臓癌では体幹部定位放射線治療も可能です。(肝臓癌の定位照射はマーカー埋込なしでも透視で位置照合可能な場合に限ります。)外科的治療の補助療法として、直腸癌術前照射、乳癌術後予防照射、食道癌内視鏡治療後の予防照射等も行っております。悪性リンパ腫や骨髄腫に関しては化学療法後の地固め、もしくは残存病変への補助的放射線治療、限局期低悪性度の NHL や孤立性の形質細胞腫等は根治照射を行っております。

症例によっては強度変調放射線治療(*1)が望ましい場合もあり、また当院で困難な定位放射線治療(*2)もあり、その様な症例は東北大学病院などへご紹介しております。

脳転移、骨転移、上大静脈症候群への緩和照射は緊急性の高い症例もございますが、当院では比較的早期に開始できる体制にございます。

良性疾患の放射線療法も、甲状腺眼症やケロイド(術後再発予防もしくは単独放射線治療)などで実施可能です。

X線外照射以外では、ラジウム 223 内用療法を行っております。去勢抵抗性前立腺癌の骨転移症例に対して全生存期間や骨関連事象発現までの期間を延長させる効果が見込まれる治療です。

上記疾患以外にも、根治的治療、緩和的治療を問わずなるべく対応したいと考えておりますので、お気軽にお問い合わせ下さい。

*1 残念ながら当院では未だ導入されていません

*2 特に転移性脳腫瘍や肝臓癌

【ご紹介いただく際の留意事項】

新患は完全予約制です。当院地域医療連携センターを通して予約をお願いいたします。予約の際は、診療情報提供書その他検査結果等もご添付いただきたく存じます。

歯科 完全予約制

部長・口腔ケアセンター長 永井 浩美

医師 塚田 甲

【特色】

平素より東北労災病院歯科へは連携地域歯科医院からのご紹介症例を数多くいただき、誠にありがとうございます。おかげさまで今年度の当院歯科は、例年同様、下記を中心に診療を継続いたします。

- ①周術期口腔機能管理
- ②地域連携歯科医院からのご紹介症例(主に口腔外科症例)
(原則的に火曜日、木曜日、金曜日の午前中)
- ③院内入院患者さんの歯科的対応
- ④院内他職種連携診療チームへの参加

コロナ禍も一段落し、院内のがん患者さんの手術数も、また地域連携歯科医院からのご紹介数数も回復しております。

①の患者さんにつきましては退院後、元のかかりつけ歯科へのご紹介を心がけております。全身状態に支障のない患者さんにつきましては是非口腔管理を継続いただきたく、当科としての診療情報、歯科治療に必要な Data も添付の上御依頼申し上げております。口腔粘膜炎をはじめとするがん治療前後の口腔有害事象につきましてはいつでも当科も併診いたしますので、連携の継続をお願いいたします。

②の地域連携歯科からのご紹介受け入れに関しましては、なるべく待期期間のないよう金曜日の紹介枠を増やしております。

患者さんのご都合もあるかと存じますが、是非ご活用くださるようお願いいたします。

現在受入数の多いのは、埋伏智歯などの抜歯、外傷、嚢胞などの顎骨病変・顎骨壊死、炎症、粘膜疾患、顎関節疾患などで、入院対応も行っております。他お困りの症例や急を要する症例につきましては出来る限り応需いたしますので、お気軽にご相談だけでもお寄せいただければ幸いです。

【ご紹介いただく際の留意事項】

新患は完全予約制です。受診には紹介が必要とさせていただき、当院地域医療連携センターを通して予約をお願いいたします。予約の際は、診療情報提供書その他検査結果等もご添付いただきたく存じます。

産婦人科 完全予約制

【特色】

2021年4月から月、水、木の週3回の外来診療を行っています。水曜日は東北大学産婦人科の医師が担当しています。新患は水曜日は午前に、月曜日と木曜日は午後に受付しています。新患受付時間が異なりますので、御紹介の際は予約を入れていただけるとありがたいです。

月経困難症、更年期障害、子宮がん検診の2次検診、骨盤臓器脱などを主に診療しています。

現在は産婦人科の手術を行っていませんが、泌尿器科で骨盤臓器脱の手術をしていただいていますので、子宮脱や膀胱瘤等の骨盤臓器脱は泌尿器科にも相談のうえ治療を行っています。子宮筋腫や卵巣腫瘍などの経過観察中に手術が必要になった場合には、手術可能な施設へ紹介しております。

分娩を取り扱っていませんので、原則として妊婦健診は行っておりません。

また、不妊症関係も諸設備が十分整っておりませんので、排卵誘発までの治療となっています。

診療が縮小して御迷惑をおかけいたしておりますが、今後ともよろしくお願い申し上げます。

【主な疾患】

月経困難症、更年期障害、子宮がん検診の 2 次検診、骨盤臓器脱など

【ご紹介いただく際の留意事項】

新患の場合、予約も承っております。予約希望の際は当院地域医療連携センターを通して予約をお願いいたします。

健康診断部

部長 長澤 美穂

医師 今岡 洋一

【特色】

健康診断部は、2 名の医師で担当しています。

特定健診、定期・雇入れなどの一般健診、生活習慣病予防健診、人間ドック、特殊健診など様々な健診を行っています。人間ドックでの上部消化管の検査は透視ではなく、最初から内視鏡で対応しています。また、泊りがけで行う一泊ドックではオプション検査として大腸内視鏡検査が可能であり、治療就労両立支援センターにおいて生活・運動・栄養指導を受けることができる点など総合病院ならではのコースが設定されています。さらに、特殊健診としてじん肺、石綿、電離放射線、高気圧障害、振動障害、有機溶剤、VDT など職業に関連した健診も行っています。

予防医学の面から皆様のお役に立てるよう診療を行っています。よろしくお願いいたします。

病理診断科

部長 村上 一宏

副部長 中山 文恵

【特色】

当科は常勤病理専門医 2 名で、東北大学病院の協力を得ながら診断を行っています。

病理診断は治療方針の決定や治療効果の判定にしばしば重要な役割を持つため各診療科との連携が必須であり、各科と積極的に関わりつつ、診断や治療方針に関する意見交換を行うよう心掛けています。

また、悪性腫瘍の病理組織・細胞検体を用いたコンパニオン診断やゲノム診断に対応するため、質の高い病理組織検体を提供できるよう日本病理学会の取扱い規定に準拠して標本作製しています。

診断困難例では東北大学病院病理部をはじめ外部施設へのコンサルテーションを行うことで診断精度を高める努力をしています。

今年度もどうぞよろしくお願いいたします。